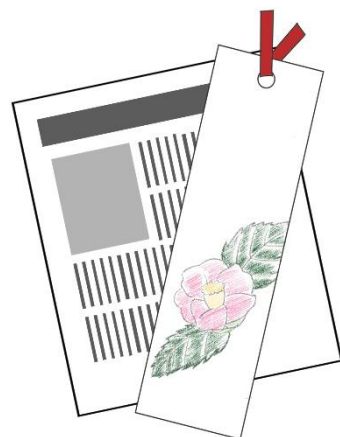


葉と嘘の暗号 第二回

前回までのあらすじ

大学の図書館カウンターでアルバイト中、忘れ物らしき葉を見つけた二人は……



「なんすかね、これ」

「普通に考えたら、忘れ物、かな」

「始まりは、返本台に置いてあった一冊の本だった。」

「そして、その本に挟まっていた葉と一枚のメモ。」

「メモに書かれていた数字を元に本を探してみたら、その本にも同じような葉が挟まっていた。」

「印刷されたものじゃない。画用紙に色鉛筆でピンク色の花が描かれていて、「丁寧にラミネートまでされている。」

「あと、これも一緒に挟まってみました」

「新聞記事？」

「さわった感じは普通のコピー用紙だから、新聞をコピーしたものだと思う。」

「新聞紙名も日付も入っていないが、特徴的な見出しの形や文章の段組は新聞によく見るレイアウトだ。ハガキくらいの大きさで、地方のちよつとしたイベントが写真付きで紹介されている。」

「記事と本の内容とは別に関係ないみたいだな」

「先輩はバラバラとその本をめぐって、

他にも何か挟まっていないか確かめているみたいだった。

「そもそもこれ、いつの、どの新聞なんすかね」

「記事は変なところで切れていて、全文が読めない。スマホ関連の用語が使われているから、そんなに古い記事でもなさそうだけど。」

「調べてみる？」

「えっ」

「めんどくさそう、と思ったのが顔に出いたらしく、先輩はからかうようにニヤニヤと笑った。」

「確かに、図書館には新聞もたくさんある。このあたりの地方紙だけじゃなく、全国紙もあるし、北海道・東北地方の新聞もそろっている。カウンターにいるときに「去年の新聞が読みたい」と言われて、書庫を案内したこともある。」

「けど、日付がわからない、どの新聞かもわからないものを、見出しだけでどうやって探せば……」

「新聞記事検索データベース、使ったことない？」

「無いっす」

データベース？

「図書館のサイトから、リンクをたどって、ログインして、見出しの単語を入れて……あ、この記事かな」

「へえ」

「先輩がささつとパソコンを操作すると、画面には手元のコピーとまったと同じ内容の記事が表示された。」

「え、これ、何でも探せるんですか？」

「何でも、じゃないけど、図書館で契約している範囲なら」

「へえ……」

「画面には、平成と令和だけでなく明治大正昭和という文字も表示されている。見出しで調べるだけでなく、日付で絞り込んだりもできるみたいだ。」

「今調べたデータベースなら、この新聞の創刊号から閲覧可能だから、百年前の新聞も読めるよ」

「百年……」

「そんなに古い新聞でも、見出しの単語で検索してパソコンでそのまま読めるなんて、実はすごく便利なのでは。」

「この新聞でこの日付なら、原紙は書庫にあるね。行ってみる？」

「先輩はまたニヤニヤ笑っていた。」

「原紙。そうだ。今データベースで調べた記事の、新聞そのものが、この図書館にあるということだ。」

「暗号を先に解読されたようで悔しいけれど、確認せずにはいられない。」

「すいません、行つてきます！」

「そう言い残して、早歩きで書庫に向かう。」

「そこにも葉が挟まっているかもしれないのだから。」

「つつく」

